

(1) 学校教育目標	「正剛明朗」の校訓のもと、倫理観・正義感、そして強くたくましい心身をもって正道を歩み、命を学び、命を考え命を育てる農人及び広く産業人として郷土に誇りをもち、異質なものを寛容な心で理解し多様性を尊重する精神と新しい時代を自ら切り拓く豊かな創造力をもった、太陽のように明るく意欲に満ちた光で地域を照らす人材を育成する。	学校番号	43
			学校名
(2) 現状と課題	生徒の出席状況・服装容態・授業態度ともに安定し落ち着いている。校外での取り組みや各種活動が軌道に乗った結果、地域社会との関わりが活性化し、その取り組みが数多く報道されるなど、地域からの期待が高まっている。資格取得や部活動、各種コンテストでの入賞が生徒の自信となってきたり、特定の生徒だけでなく、個々の生徒の自発的な活動が更に求められる。近年、生徒の家庭環境や保護者の意識が変容しており、生徒・保護者・教職員のコミュニケーションをいかにして上手に図れるかも課題である。	全日制の課程	本校・校舎・分校
			自己評価実施日
(3) 重点目標	1 生徒の将来を拓く「より高度な検定・資格取得」支援 2 生徒の将来を創る「GLOBALG. A. P. 等国際認証取得」支援 3 生徒の将来に生きる「ビジネス・プレゼンテーション能力」育成	学校関係者評価実施日	平成30年2月1日(木)
		(9) オイ 学校関係者評価委員会の構成	
(4) 結果の公表	本校ホームページで公表	学校評議員(5名)	

番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	学校関係者評価		
				(8) 目標の達成度	(9) 学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	生徒の主体性の育成 ア 自ら学び、自ら考える力の育成 イ 自ら企画、調整し、行動する力の育成	①授業・研修の充実 生徒がわかる授業、丁寧な授業の実施をし「自ら学びたくなる」ような生徒の学習意欲を喚起する。 イ 生徒が主体的に参加する授業、言語活動を効果的に取り入れた探求型学習を促し、課題発見能力、課題解決能力及び思考力、プレゼンテーション能力を育成する。 ウ 校外外の研修を充実させ教員の指導力を向上する。 ②行事で生徒の主体性育成 ア 学校行事や生徒会行事、部活動、委員会活動等を活用し、生徒が主体的に行動する機会を設け、これを促し、企画力、調整能力、行動力を育成する。	年間学習指導計画で評価規程を明確にし、授業内容の精選・指導力向上・生徒の理解度アップにつなげている。また、授業に取り組み「関心・意欲・態度」をしっかり評価することにより、授業規律の確保につながった。多様な場面で、自己の置かれた状況を正しく判断し行動することが出来る生徒がほとんどである。 校内授業研修では、教科の授業だけでなく、ホームルーム活動でも行い、ホームルーム活動の充実を図り、生徒の進路指導に対する対応の向上を目指した。今後の課題として、主体的な学び、アクティブラーニングでの授業内容充実、生徒の学力向上に努めていくことがあげられる。 生徒会行事・農業クラブ行事の企画・実践は勿論であるが、中学生対象の体験入学における中学生への対応に生徒が主体的に関わり、丁寧な接し方や説明に対し、中学生や保護者から好評を得た。その一方で、行事を通して生徒会役員や農業クラブ役員リーダーとしての資質向上も課題である。	B	生徒の基礎学力向上について、今後も継続してよく指導して欲しい。授業内容を検証し、校外での実習活動や、外部講師の活用を促し、生徒の学ぶ意欲の向上に努めて欲しい。 また、学校の教育レベルが向上しているため、先生方の更なる能力向上のための研修や、授業等について行けない生徒が出ないよう、日々、注意深く見守っていくことが必要である。今の状態を後輩に継承出来るようにすることを期待している。	(10) 次年度への課題と改善策 ①学習指導要領に即した教科指導と、より分かり易い授業の実践に努める。アクティブラーニングを利用した探求型学習の実践を授業研修に取り入れ、教員の授業改善を進める。 ②県の事業や外部の人材を活用しながら、教育活動を充実させ、課題発見の方法や解決方法を考えるなど、主体性の育成を図る。 ③生徒が主体的に関わり学校行事を充実させる事が必要である。そのためには、コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力の育成を目指し、生徒の活躍の場を提供しなければならない。 ④生徒会活動や農業クラブ活動を通して役員リーダーとしての資質向上を図るため、他校の役員と交流をする等、思考の幅を広げるような工夫をする。
2	キャリア教育の更なる充実 ア 確かな学力養成・専門性の深化 イ 自律・協調の精神・豊かな心の育成 ウ 望ましい職業観・勤労観の育成	①基礎学力向上と資格取得 ア 「五農チャレンジ」で基礎固めを徹底する。 イ 農業科目関連の各種検定、資格の取得を通じ、生徒の学力や専門性を可視化する。 ウ 高度な資格取得への態度を育成する。 ②自律・協調の精神・豊かな心の育成 ア 人と関わる機会を活用し、自分の感情をコントロールしたり、相手の立場に立った言動をする事が出来る生徒の育成する。 イ 共通の目標に向かって協力して苦楽を乗り越え、感動を共にすることで豊かな、折れない心を育成する。 ③職業観・勤労観の育成 ア 課題研究やインターンシップをとおして、自己理解、職業観・勤労観の理解を促進しつづ育成する。 イ 企業訪問の充実による、生徒・職員の情報共有と企業理解の深化をする。	「五農チャレンジ」は実施7年目となり、学期ごとの教科指導にしたことや確認テスト後の土曜学習の実施、また、長期休業中の補習により、生徒の学力や意欲が向上した。資格取得に向けた学習への取り組みが活発にできるようになった。また、各種検定取得や農業クラブでの意見発表・プレゼンテーションで好成績を収め、アグリマイスター顕彰制度で112名の認定を受け、3年連続日本の成績を取った。 多くの実習授業で、自己実現のために多くの経験を通過し、できることを実感し、進路実現に向け取り組みが豊富であり、また、数多くのコンテスト等に参加することで視野を広げ進路実現に向け取り組んでいる。 各学年とも担任による個人面談を実施した。2年生では、4者(生徒・保護者・担任・学科主任)による、進路に対する面談を充実し、進路意識の向上を図った。インターンシップでは外部講師を招いて意義・目的の理解を促し、マナーの向上を行った。終了後は実施記録の作成や礼状書を通じ振り返りを行った。また、県の事業を有効的に活用し、3年間を見据えた進路指導を実施している。3年生の進路決定率98.3%となっているが、卒業後も指導をし、100%を目指して取り組んでいる。	A	基礎学力の向上は資格取得の状況からも成果が上がっていると考えられる。 インターンシップは社会と接する良い機会なので、一層の充実を図ってほしい。1年生においてもインターンシップを実施するなど、社会とのつながりを一層強化して欲しい。 GLOBALG. A. P. 認証、FSC認証の取得や6次産業化関連の活動を通じ、農業経営に興味を持ちやすい環境を提供し、実践していることは、今後生徒が興味関心を抱き、農業分野でも活躍してくれるものと期待している。 富産分野がなかったのは残念である。諸事情があると思われ何が何らかの障壁を考えて欲しい。 今後も、手厚い指導をお願いします。	①基礎学力の向上には反復練習が欠かせない反面、マンネリ化を招きやすい。生徒の取り組み状況を確認しながら、更に有効に働かすよう、五農チャレンジで使用する教科書の充実を図り、先生方の事前研修を実施する。 ②キャリア教育の観点からも、生徒たちの視野を広げ、考察を深めるようなガイダンスや講話を実施する。また、保護者の理解や協力が欠かせないため、各種ガイダンスへの保護者の参加も促し取り組む。 ③生徒が職業理解を充実させるために、地域関係者の講話を聴く機会を充実させたり、企業訪問を通じた企業研究の充実などに取り組む。 ④2年生のインターンシップ終了後、全員による報告会及び代表者による1年生へのプレゼンテーションを実施し、キャリア教育の充実を図る。 ⑤GLOBALG. A. P. 、FSC認証の取得に向け、生徒主体のギャップチームが中心となり勉強を重ねている。また、様々な取り組みの報告を通して全校生徒で情報共有をしている。このことを通して、農業関連産業に関心を抱かせ、地域に貢献できる生徒を育成する。
3	地域に信頼され、愛される学校づくり	ア PTAとの連携強化とPTA活動活性化による、生徒の健全育成体制を強化する。 イ 中高連携を強化し、中学生から選ばれる学校づくりを推進する。 ウ ホームページを通じた情報・文化発信や意見交換を充実する。 エ GLOBALG. A. P. 認証取得等に係る活動は、先駆者としての普及啓蒙の役割を果たすべく、ポイントを決めて公開する。	教職員、PTA、生徒会、委員会、部活動の生徒による挨拶運動を励行した。また、保護者と教職員による環境整備を充実させ、生徒が安全に活動できるようにした。 情報発信においては、ホームページの更新頻度を高め、内容の充実を図り、新聞・テレビ等のメディア活用を充実させ、中学生が選んでくれる学校づくりを推進した。 GLOBALG. A. P. 認証の公開審査を年3回実施し、全国の関係者に参観していただくことにより、この分野の先駆けとして、役目を果たした。 他に、服装・髪型整頓や時間の厳守についても、生徒指導部を中心に、学年・学科と連携を図って指導した結果、概ね良好な状態となっている。集会だけでなく、授業などでも、自己のあり方や他者のことを認める指導を徹底してきた。	A	以前の生徒のイメージから最近の五農のイメージは大きく変わり大変評判が良い。新聞やテレビなど様々なメディアに取り上げられ、卒業生としては大変うれしく思う。また、メディアに取り上げられることにより、生徒たちの顔つきも大変よくなってきた。来年度は生徒からの挨拶ははじめてもよくなるかと感じている。 また、GLOBALG. A. P. 認証取得の取り組みは素晴らしいものがある。地域の先駆けとなりこれらもどんどん活躍することを期待している。 入学生産体の観点からも、中学校の先生方と説明会を開くことは大切である。中学生への丁寧な説明はもちろんであるが、教員に対してもよろしく願いたい。 学校の活動を支えるためにも同窓会組織の充実(新規会員の充実)・活性化に努めて欲しい。	①保護者が来校しやすい環境作りとして、各種行事への案内やPTA活動の充実を今以上に充実させる。 ②学校ホームページを使った情報公開を充実させたため、全国農業高校ホームページ部門での最優秀賞を2年連続受賞した。また、地域の方からも「五農の取り組みがよく分かる」と好評である。来年度以降も継続し、学校の取り組みに対する理解を更に深めてもらう。 ③校外の行事やボランティア活動などに積極的に参加し、地域との交流を活発に行う。 ④GLOBALG. A. P. 認証取得の取り組みは、全国の先駆けとして、今後も継続的に公開したり、情報発信していく。
(11) 総括	今年度、リンゴ、コメ、メロンにおいてGLOBALG. A. P. 認証を取得、さらにFSC認証の取得をした。GLOBALG. A. P. において、全国の農業・教育・行政関係者に審査の状況を公開し、先駆けとしての役割を果たしている。また、本校で栽培した米がANAの国際線機内食や岩塚製菓のお菓子に採用され、本校での取り組みが大きな成果を上げている。アグリマイスター顕彰制度の取得状況が3年連続全国トップであることに対し、特別表彰を受けるなど、全国から注目や期待を集めている。生徒も学習や実習に積極的に関わり、進路でも大きな成果をあげている。さらに部活動でも、ラグビーは高校総体Bブロック第1位になり、相模県全国大会入賞するなど活躍し、野球部は秋季県大会に久々出場するなど、今後スポーツの面でも更なる活躍が期待される。来年度は今年度の取り組みを踏まえ、社会に有用な人間育成のために学習指導・生徒指導・進路指導等を通して、より高度な資格取得に向けた指導はもちろん、課題発見・解決能力を向上させる指導を更に充実させる。また、教職員のスキル差を解消しつつ、情報を共有することによって、生徒・保護者・教職員の意識を有機的に結びつける取り組みを推進する。					